きしまの風

発行者 杵藤農林事務所杵島農業改良普及センター
佐賀県杵島郡白石町大字東郷2546-2
TEL0952-84-3625　FAX0952-84-6425
E-mail：kitounourin@pref.saga.lg.jp
URL：http://www.pref.saga.lg.jp/list02464.html
平成30年2月
第46号

21世紀の主役たち

武雄・杵島地区の“若者力”を発揮!!

「平成29年度TK4Hアグリマネージメント CLUB冬のつどい」を1月22日に開催しました。今年もクラブ員や就農希望の農業高校生・大学生、関係機関が多く集まる中でクラブ員6名が熱い発表を聞かせてくれました。

「農業青年の提言」では、5名が発表を行い、最優秀賞に輝いた白石青年実業会の原巻大輔さんはキュウリ栽培を通して自己の考えがプラスに変化し、キュウリに対する探求心が芽生え、農業の面白さを感じていること、そして10年後には雇用型経営で経営者となり、農業に興味のある若者の窓口になれるよう努力していくことを力強く発表されました。優秀賞には家族間での意思疎通を図り、家族経営で安定した利益を確保していきたいと発表された岸川尚悟さん、レンコンとタマネギを規模拡大し父親を超える農業経営をしていくと発表された重富裕一さんが選ばれました。優良賞には農業に可能性を感じ、経営主になったときにやりたいことを考えながら父のもとで技術習得に勤しんでいる黒木浩司さん、子供が出来たことをきっかけに「父親としてかっこいい背中を見せなくては」と決意し奮起している岸川俊介さんが選ばれました。

「経営発展プロジェクト」では、武友会の山口高星さんが施設キュウリにおいて高収量農家とのハウス内環境データ比較から栽培環境の改善による収量向上および病気の発生軽減、排水対策による生育の改善について取り組みを発表され、最優秀賞に輝きました。

最優秀賞の原巻さんと山口さんは2月9日に唐津市で開催される佐賀県農業青年冬のつどいで杵島地区代表として発表されます。頑張ってください！

左：山口さん　右：原巻さん

佐賀農業賞　受賞者紹介

先進的農業経営者の部 優秀賞・佐賀新聞社賞

白石町　木下重信・寿子　氏

「スイートピーを基幹品目とした大規模雇用型経営の実現」

木下さんは、140aの施設でスイートピー栽培という大規模雇用型経営を実現されています。

スイートピーを導入した当初から他産地に先駆けて栽培技術を確立されたことで、近隣の大産地（宮崎、岡山）にも負けない高品質な切り花を生産され、県内外からの視察も多く、全国レベルで注目度が高い存在です。H27年度には長男が就農し、確立した栽培技術の伝承に努められているところです。

また、地域の花き研究会会長の長年の歴任に加えて、近年では佐賀県農業士も担い、花き生産者をけん引する産地のリーダーとして地域に貢献していただいています。

若い農業経営者の部　優秀賞

大町町　中里智也　氏

「流通業界から新規参入、小ねぎ栽培で雇用型大規模経営をめざす」

就農前に市場の仲買業に従事していた中で、農産物を生産することに可能性を見出し、31歳で就農されました。現在は8名を雇用し、ハウス小ねぎ46aの専作経営に取り組まれています。

当初から「自分の子供に安心して食べさせられる小ねぎ栽培」を信条に、徹底した土づくりと無化学肥料・減化学農薬栽培に取り組まれ、葉先枯れが少なく品質の高い出荷物は「中里のねぎ」として認知されています。また、JA出荷を基本としつつ、独自に加工原料の出荷先開拓を行うなど、販路開拓にも取り組まれており、今後はさらなる収益向上と経営安定を目標にされています。

組織・集団の部 優秀賞・佐賀県農業協同組合中央会長賞

白石町　北区機械利用組合

「露地野菜を基幹とした農業の展開」

当組合は、昭和四十二年に乗用トラクタ五台を導入し機械化による水稲や玉ねぎの生産体系の確立のため機械利用組合が設立されました。

その後、トラクタの台数増加と排水向上対策のための作業機の装備充実が図られています。野菜を中心とした白石農業の礎を築かれ、約五十年に渡って継続されています。運営理念は、農業経営や農村活動で維持すべきところは継続し、改善すべきところは改善することをモットーに「魅力ある農業生産体制の構築」が図られています。

普及指導活動の一コマ

新規就農者の育成

杵島普及センターでは、新規就農者の早期経営安定を図るため、「青年農業者等育成塾」を実施しています。農業経営の基礎や土壌・肥料、病害虫などを学ぶ「基礎講座」全５講座に加え、土地利用型・施設園芸等のコース別選択講座を全８講座実施しました。今年度は１月現在までに延べ１６７名が受講者し、技術・知識の習得を行いました。

受講者からは、「農業の専門用語が分からなかったりする。改めて学習する機会があり勉強になった。」「現地巡回等を行い、それぞれの作物別に実際の圃場を見ながらの栽培のポイントを確認し、大変勉強になった。」との感想がありました。

今後も新規就農者の早期経営安定を目指し、支援を行っていきます。

土地利用型コース現地研修（１月30日）

「ゼロからわかる病害虫と農薬の使い方」講座（8月29日）

進むGAPの取り組み

GAPとは、「Good Agricultural Practice：農業生産工程管理」の略称です。近年、消費者の食品安全に対する要求が高まる中、農作業のやり方を見直し、改善することで、農産物の安全性向上、環境保全、農作業中事故のリスクを減らすことを目的とした取り組みです。２０２０年の東京オリンピック・パラリンピックの食料調達要件となったことで注目されており、一部の大手販売店では、取り扱い農産物にGAP認証を要件化するなどの動きもあります。我が家の経営を見直すための一つの方法として、ぜひ取り組んでみませんか。まずは、倉庫の整理整頓や、管理作業の記録、チェックシートの実施など取り組みやすいところから始めましょう。詳細については、普及センターまで。

「佐賀県GAP」の内容（抜粋）

区分	取組事項	管理適合基準
農薬燃料等の管理	農薬、燃料等は適切に管理している。	農薬は、冷涼・乾燥した場所で、関係者以外が立入らないように鍵のかかる場所に保管している。

農薬の管理（取組一例）

佐賀県GAPチェックシート【野菜、果樹、茶等】

生産者記入欄		結果記入欄	
作物名		受理日	
生産者名		確認日	
住所		確認者名	
TEL			
記入日			

1 食品安全を主な目的とする取組

区分	番号	必須/重要	取組事項	管理・適合基準	はい	いいえ	該当しない	備考
ほ場環境の確認と衛生管理	1	重要	ほ場やその周辺環境（土壌や汚水等）、農薬等、資材等から汚染されないように対策をとっている。	ほ場及び隣接地の過去及び現在の用途（農用地、廃棄物・資材置場など）を確認している。				
				廃棄物は衛生上支障がないように処理している				
				肥料等の製造・保管場所において、堆肥や原料ふんが敷ならないよう清掃している。				
				大雨時、汚水の流れ込みを防ぎ、速やかに排水している。				
農薬の使用	2	必須	無登録農薬及び無登録農薬の疑いのある資材は使っていない。（法令上の義務）	容器又は包装に登録を受けた表示のある農薬以外を使用していない。				
	3	重要	農薬使用前に防除器具等の十分な点検、使用後に十分な洗浄を行っている。	農薬の使用前には、防除器具等を点検し、十分に洗浄していることを確認している。				
				同一の防除器具を複数の作物に使用する場合は、農薬の使用後には、防除器具の薬液タンク、ホース、噴霧、ノズル等農薬残留の可能性がある箇所に特に注意して、十分に洗浄している。				
	4	必須	農薬の使用の都度、容器又は包装の表示内容を確認し、表示内容を守って農薬を使用している。（法令上の義務）	農薬の表示内容を守って農薬を使用している。 ①農薬を使用できる農作物、②使用量、③希釈倍数、④使用する時期（収穫前の使用禁止期間）、⑤使用できる回数（使用前に記録等を確認する）、⑥有効期限、⑦使用上の注意				

チェックシート（例）

地域情報コーナー

集落営農法人でキャベツ栽培の試み

平成28年に武雄市で法人化された集落営農法人の「西梅野ファーム」では、構成員45戸で36haの農地を経営されています。現在は米麦大豆を中心に作付けされており、今後の法人組織の収益向上と冬場の労力活用を目的に、JAの契約栽培を活用しながら約25aの圃場で冬キャベツの導入試験に取り組まれています。試験圃場では、排水路側に貫通させた水抜きパイプを1本埋め込み、そこから圃場全体にサブソイラーやモミガラ弾丸を放射状に施工することで、水田の排水不良改善にも取り組まれています。

モミガラ弾丸暗渠の施工

キャベツの生育状況（11月17日）

「佐賀牛」の大繁殖産地を目指して

「佐賀牛」は県を代表する農畜産物であり、国内はもとより海外でも高い評価を誇る高級ブランド和牛に成長しています。ただし、肥育素牛については約4分の3を県外に依存しており大きな課題となっています。

そのような中、肥育素牛の高値推移に伴い県内では地域を担う若い方々を中心に繁殖規模を拡大していますが、白石地域は県内一の伸びとなっています。そこで、当センターでは白石地域を対象として、担い手の方々に良質な子牛の育成に向けた支援や研修会等を実施しております。今後、「佐賀牛」の大繁殖産地に成長していくことに期待が膨らみます。

子牛の育成についての研修会

子牛の体型を測定

女性農業者のネットワークづくり

担い手減少が進む中、女性農業者の活躍が求められています。杵島普及センターでは、若手女性農業者の育成とネットワークを図るため「農業女子研修会」を開催しました。

第1回目の9月8日には、「子どもが喜ぶおやつづくり」を通して交流を行い、その後、分科会では「農業っていいなと思うこと、困っていること」などを話合いました。

また、第2回目の1月16日には「農業女性1人ひとりが輝き、生きがいを感じる農業経営を目指して」をテーマとし、事例紹介や意見交換会を行いました。

参加者からは、「頑張っている女性農業者のお話を聞いて元気が出た。」「農大に農業機械免許を取りに行きたい」「同じ世代の方のいろんな情報が聞けて良かった。また参加したい」等の声が聞かれ、研修会の継続とネットワークの構築を約束しました。

「女性が輝く農業経営」をテーマに意見交換（1月16日）